

JXTA, ナップスターなど気になる話題を徹底検証

動き始めた P2P ビジネス

川崎 裕一 (かわさき・ゆういち)
 ネットイヤーグループ / デジタルストラテジスト、
 Jnutella.org ファウンダー
 Jump www.jnutella.org

クライアント同士でデータのやり取りを行う P2P (Peer-to-Peer) がここに来て一気に盛り上がり始めた。VC による投資も拡大しているばかりか、いくつかの P2P 業界団体も活動を本格化し、インテルやサンといった大手企業も本腰を入れ始めた。さらに、ネットスケープ社の経営者たちが P2P に進出するなど、業界全体が目を見張るほど激しく動いている。本稿は 2001 年 2 月 14 ~ 16 日までの 3 日間米国カリフォルニア州サンフランシスコで開催された「オライリー P2P カンファレンス」で取り上げられた話題を中心に、P2P 業界の最新トピックを整理したい。

P2P におけるパワーゲーム

今回参加した「P2P カンファレンス」の中で注目すべきトピックを挙げると、以下の3つに集約できるだろう。①ベンチャーキャピタルと資金調達、②P2P プラットフォームとしての「JXTA」、③業界団体を通じた標準化、である。この3つのトピックを考察しながら、今後のトレンドを考えていきたい。動きの激しい P2P 業界だが、さまざまな動きをこの3つの軸に整理して関連を考えながらまとめる。

ベンチャー投資はいま P2P に集中

バッテリーベンチャーズ社のラリー・チェン氏は、ベンチャーキャピタル(以下、VC)の投資のトレンドについて、「2001年2月までに150以上のP2P関連企業が存在し、VCが

おもなP2P企業による大規模資金調達

企業名・URL	調達金額	出資元VC	分類
グルーヴネットワークス www.groovenetworks.com	72億円	アクセルパートナーズ	コラボレーション/ グループウェア
エントロピア www.entropia.com	35億円	ミッションベンチャーズ	分散 コンピューティング
コンサイレント www.consilient.com	26億円	オークヒル	コラボレーション/ グループウェア
ネクストページ www.nextpage.com	24億円	オークインベストメント	コラボレーション/ グループウェア
ナップスター www.napster.com	20億円	ヒューマンミッション	ファイル共有
オープンコラ www.opencola.com	18億円	BV	分散サーチエンジン
ユナイテッドデバイス www.uniteddevices.com	16億円	ソフトバンク ベンチャーキャピタル	分散 コンピューティング
エクステグrees www.xdegrees.com	10億円	レッドポイント ベンチャーズ	プラットフォーム/ インフラストラクチャー

らの投資総額は約360億円に上っている」と説明した(上表参照)。なかでもロータス・ノーツの開発者として知られるレイ・オジー氏が率いるグルーヴネットワークス社は名門VCであるアクセルパートナーズ社から72億円も

の投資を受け、出資額で他の企業から一歩抜きん出た存在である。また3月5日にはジム・パークスデール氏とマーク・アンドリーセン氏がP2Pによる負荷分散技術を持つソディアックネットワークス社に出資を行い、イーベイへの出資で有名となったベンチマークキャピタルも参加する。ソディアックは、ユーザーが閲覧したコンテンツをユーザーのローカルディスクで共有してキャッシングと負荷分散によりネットワークの効率化を図ろうとする「P2P 版アカマイ・テクノロジーズ」といった位置付けの企業だ。

各社が狙うP2Pの標準化 最初の動きはサンから

次に、サン・マイクロシステムズ(以下サン)のビル・ジョイ氏によってアナウンスされ

デジタルミレニアム法とナップスター

P2P カンファレンスでのもう1つの大きな話題は「ナップスター」と「著作権」であった。米国スタンフォード大学法律学教授であるローレンス・レッシング氏は「問題になっている著作権、特に米国デジタルミレニアム法は、我々が持つフェアユースの権利を失わせるものである。法律は我々の権利を守るためにあり、我々の権利を侵害するものではない。また法律は技術的な革命を妨げること

はできないし、妨げてはいけない。著作権への歪んだ考え方は富を集中させ、所得の格差を増やすこととなる。ビル・ゲイツは著作権を使って大金持ちになったが、多くの人はずうはならなかった。これはまさにその結果だ」と言っている。法律は万能ではなく、間違った法律というものに疑問を持つことが人々に創造性を発揮させ、革命を生む。ナップスターはその最たる例だったのである。

P2PWG とGDF の関係

議長

Brian Morrow (Endeavors Technology 社)

コミティーメンバー

Andrew Chien (Entropia 社)
Andrew Grimshaw
(Applied MetaComputing 社)
Jeffrey Kay (Engenia Software 社)
Tim Mattson (Intel 社)

議長 :

Bob Knighten (Intel 社)

カウンシルメンバー :

Greg Bolcer (Endeavors Technology 社)
Steve Bush (OpenDesign 社)
Andrew Grimshaw
(Applied MetaComputing 社)
Tom Ngo (NextPage 社)
Damien Stolarz (Static.com 社)
Jikku Venkat (United Devices 社)

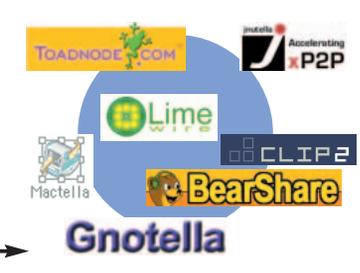
目的

P2P コンピューティングをどこでもできるようなインフラストラクチャーとなる標準を開発、策定する

ピア・ツー・ピア・ワーキンググループ



グヌーテラ・デベロッパーフォーラム



主要メンバー

Vincent Falco (BearShare 社)
Greg Bildson (LimeWire 社)
Steve Bryan (Mactella 社)
Christopher Rohr (LimeWire 社)
John Marshall (Gnucleus 社)
Shaun Sidwall (Gnotella 社)
Sebastien Lamba (gPulp consortium 社)
Serguei Osokine
Ben Houston

目的

グヌーテラの問題点を開発者間で議論し、実装する中立て、オープンなフォーラムを目指す

た「Juxtapose」(以下、JXTA)について取り上げる。JXTAとは、強固なセキュリティーを保ちつつP2Pアプリケーションを容易に開発できるプラットフォームであり、デバイス間の接続、同グループ化、モニタリング、堅牢なセキュリティーが組み入れられている。

さらにサンは3月6日、P2Pによる分散検索技術を持つインフラサーチ社を買収することを発表した。この買収の狙いは以下の2つだ。(1) P2P関連分野で影響力の強いジーン・カン氏という人材を社内に引き込むことで、この分野への発言力を高めること。(2) JXTAのフレームワークに、グヌーテラの開発・改良で大きな貢献のあった人材を持つインフラサーチの技術を組み入れて、開発時間短縮を狙うこと。

JavaとJiniで完全なる分散環境を構築する戦略を目指すサンにとって、JXTAは3つ目の柱である。P2Pアプリケーションの開発者、Java、Jiniに従事してきた開発者は、4月のJXTAに関するオンラインカンファレンスのフォローが必要であろう。

標準化独占を牽制する動きは P2PWG、GDFの勢力へ収斂

新たに登場した技術の「標準化」においては業界団体が果たす役割は大きく、その動向は抑えておきたい。本稿では最後に、P2Pプロトコルの標準化に向けた動きである「ピア・ツー・ピア・ワーキンググループ」(以下、P2PWG)とグヌーテラ・デベロッパーフォーラム(以下、GDF)について見てみよう。P2PWGは、2000年10月の第1回会合でインテル色を強く打ち出して非常にクローズドな開発形式にしようとしたために、多くの開発者から批判を浴びてしまった。これを踏まえた今年2月の第2回会合では、P2Pスタートアップ企業を中心に据え、インテル色を薄めることを推し進めた(上図参照)。

一方、グヌーテラクロンの開発者の中で大きな流れを作っているのが「グヌーテラ・デベロッパーフォーラム」(以下、GDF)だ。グヌーテラクロンの開発者および関係者が現状のグヌーテラの問題点を議論し、その解

決にあたるためにプロトコルの改良などを行うフォーラムである。筆者が参加するJnutella.orgもGDFとの連携を行っていきたいと考えている。

この2つの異なる組織の橋渡し役として、P2PWGのテクニカルアーキテクチャー・カウンシルのメンバーとなったスタティック社のダミアン・ストラース氏と、WGのメンバーであるオープンコラ社のコーリー・ドクトロウ氏の2人が考えられる。オープンソース文化を深く理解し、開発者の中でも信頼が厚い彼らは、両グループの連携をうまく取ることができるだろう。

ビジネスの枠組みは整った

これまで述べてきた3つポイントから、P2Pコンピューティングを行う外堀が埋まりつつあることは明らかだ。今後は、「純粋にP2Pでしかできない何か」を理解し、それを実践できた企業がこの分野の覇者になるだろう。だが、私はまだその企業を見付けられていない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp